

# 家庭医療・地域医療専門医 研修ネットワークプログラム

## 1 はじめに

プログラムリーダー 伊東市民病院 臨床研修センター長 八森 淳

このプログラムは、総合診療、家庭医療などを軸に総合的な診療ができる医師を要請するプログラムです。その基盤にはジェネラリストとして全体を取り扱うことができる能力を必要とし、それを修得することも重要な目標になります。



### 【将来こういう場で働きたい医師が参加するの？】

将来的に、地域のかかりつけ医として貢献したいと思っている診療所勤務や開業を目指している医師、診療科にとらわれずプライマリケアを専門とする医師、病院で総合診療医やホスピタリスト、内科全般を取り扱える医師、病院、診療所を問わずへき地医療やその支援活動、発展途上国での医療支援をしたいと思う医師などが、思いや意見を交わし、必要な技能を身につけるとともに、それを使う器（自分）を磨き続けられる力を養うことができるプログラムを目指します。

### 【家庭医療・地域医療は心がけ？学問的背景は？】

これまで、地域の中で患者様や家族、住民の生活に寄り添ってきた医師が、医学的な科学的根拠とその取り扱い方を重視しつつも、医療の主体者である患者様本人、家族や住民の物語に寄り添い、時には新しい物語を一緒につくっていく中で、医療をどう共有し展開していくかということ修得してもらいます。これらの医療は決して心がけだけではなく、家庭医療学や地域医療学が包含するPatient Centered Clinical Methodや、Community Oriented Primary Care、Narrative Based Medicineなどの理論背景や実践方法をもとに、修得できるSkillに落とし込めるように、学ぶ状況を共につくっていきます。

### 【なぜ、伊豆のこのプログラムか？】

#### ——地域の視点、多彩な救急疾患、慢性～急性、生活を扱う医療環境・地理的環境——

このような医療を学ぶ際に、地域を捉えやすい地理的設定で研修することは、目標を達成するためには非常に重要な要素となってきます。伊豆半島を中心とした今回のプログラムには、家庭や地域を捉えて医療を行うためには非常に恵まれた地理的条件を満たした診療所、病院が含まれています。さらには、その指導にあたる医師だけではなく、医療機関の多くのスタッフが「地域」を捉えた医療活動の意味を理解しています。本プログラムの基幹病院である伊東市民病院は、へき地医療やその後方支援などの体験をもとに、地域の枠組みを重要視した医療を経験してきている医師が多く、病院にいても全体を捉えることの重要性、プライマリケアの重

要性を理解しています。さらには、伊豆半島の1次2次救急の多くを担う医療機関が参加していることで、多様な救急疾患に総合的臨床能力を求められる環境もあります。また、現在、重要となっている慢性疾患への対応や、介護や福祉分野、住民活動との連携を重視している点も本プログラムの特徴でもあり、学ぶ環境として強調できる点であると思います。

温暖な気候で、リゾート地としても有名な伊豆の地にある我々の病院、診療所にぜひ見学に来てください。現場をみて、本プログラムへの参加をご検討ください。

## 2 特徴

以下、5つを重要視し、2つの認定医が修得、海外研修ができるプログラムです。

1. 継続的な外来診療・在宅診療
2. 実践的 EBM<sup>\*1)</sup>
3. 「その患者さん」をみる視点 (NBM<sup>\*2)</sup>、PCM<sup>\*3)</sup>
4. 患者・家族・地域を視点としたアプローチ
5. Practice Management (診療所運営、病棟運営ができる能力)

<sup>\*1)</sup> Evidence Based Medicine <sup>\*2)</sup> Narrative Based Medicine <sup>\*3)</sup> Patient Centered Clinical Method

### 【海外研修の奨学金制度】

研修期間内に海外研修の希望があれば、研修プログラム外での研修可能。奨学金の貸与の制度あり。研修先の斡旋や調整を行う。

### 【認定医の取得】

- ※日本プライマリ・ケア連合学会家庭医療認定医・専門医プログラム認定プログラム
- ※日本内科学会認定医の修得可能

## 3 目的

当研修プログラムを修了した研修医が、地域ニーズに応え、地域住民に信頼される保健・医療・福祉サービスを提供するために、求められる役割に応じて協調、変容でき、あらゆる問題に対応し、自らリフレクション (reflection) できる能力を身に付ける。

## 4 目標

1. 診療
  - 診療所、病院総合外来での外来診療を自立しておこなうことができる。
  - 1次・2次医療機関で救急当直を自立しておこなうことができる。
  - 地域で求められる検査 (上部消化管内視鏡、腹部・心臓超音波) を自立して行うことができる。
  - 総合診療科、内科などの病棟管理を自立しておこなうことができる。
  - EBM のプロセスに則って診療ができる。
  - 患者、家族、地域を視点としたアプローチができる。
2. 地域包括ケア
  - 地域包括ケアの概念・理念を述べるができる。

- 地域の保健・福祉・介護の資源を適切にコーディネートし、地域医療を担うチームの一員として医療を提供することができる。
- 在宅医療を計画・実施・評価できる。
- 地域保健について、評価、支援、実践することができる。
- 介護・福祉分野と連携できる知識・行動力を身につける。
- その地域の地域診断ができる。
- 他の医療機関と適切に連携をとることができる。
- 地域住民と交流する機会をもち、パートナーシップを築くことができる。

### 3. マネージメント

- 医療経済の視点を持って診療所を運営できる。
- 病棟医長の役割ができる程度の運営ができる。
- 職員と良好な人間関係を構築できる。
- 患者および医療従事者の安全管理の方策を身に付け、危機管理にリーダーとして参画する。

### 4. 生涯学習・教育・リサーチ

- 自己評価、同僚評価、外部評価を受け入れ、継続的学習をすることができる。
- 後輩・他職種の教育に取り組むことができる。
- 地域を舞台とした研究に参加し、計画を中心的に行い、発表・投稿できる。

### 5. 私生活（あらゆる環境で）

- 地域での生活を楽しむことができる。
- ライフ・ワークバランスをとることができる。
- 自己のストレスマネジメントができる。

### 6. 認定医の修得

- 内科認定医の取得
- 日本プライマリ・ケア連合学会 家庭医療認定医の取得

## 5 研修カリキュラム

3年間の研修プログラム。

日本プライマリ・ケア連合学会 家庭医療認定研修プログラムに準拠する。

内科 6～12 カ月 小児科 3～6 カ月 診療所 12 カ月 整形外科 2～3 か月

選択 6～13 カ月

※海外研修などを期間内に行うことも可能。その際には研修期間の延長を行う。

海外研修などの斡旋や、奨学金の支給などの制度あり。

## 6 研修例

- 1年目：伊東市民病院 内科ローテート＋内科当直、外来診療、救急医療  
小児科ローテート＋小児科当直
- 2年目：整形外科研修（西伊豆病院など）＋選択研修
- 3年目：診療所研修

### 【研修例】

1年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	伊東市民病院：内科を中心に研修											

※内科研修中に小児科外来を継続的に担当することも可能。

2年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	伊東市民病院（小児科）			西伊豆病院整形外科（例）			耳鼻科		眼科		放射線科	

※内科以外の研修中に、継続的に内科外来・禁煙外来などを担当することも可能

3年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	診療所（外来・在宅・地域活動）											

## 7 研修病院群

### 1) 病院群施設

伊東市民病院 ～2013.3月新病院移転・シミュレーションセンター開設～

地域医療、離島・へき地医療を充実させるべく、地域医療・家庭医療を学べる研修を提供しています。軽症から重症までほとんどの患者さまが集まるので、地域全体の状況を捉えることができます。また、救急・入院・退院・外来・慢性期まで一貫して患者さまを担当することで、患者さま自身やその背景までを診ることができます。伊東市介護老人保健施設「みはらし」および伊東市や、周辺の医療機関、福祉施設と連携しています。神経難病の在宅医療も行うなど、地域に密着した医療を展開しています。新病院となり研修環境の改善とシミュレーションセンター開設により必要・技術トレーニングも更に充実しました。

#### 西伊豆病院

西伊豆地区唯一の病院であり、地域に根ざした急性期救急対応病院です。「救急はすべて受け入れる」をモットーに24時間365日一次二次救急の受入れを行っており、専門に限らず数多くの救急医療を経験することが出来ます。また、亜急性期病床も有しており、急性期から慢性期まで患者さまやそのご家族に関わることによって地域医療を学ぶことができます。

毎週水・木曜日8時からプライマリー・ケア・レクチャー（札幌医大主催）への参加、毎週水曜日には内科カンファレンス、土曜日には医局カンファレンスを実施。地域に向けて健康教室や講演会なども行っています。さらに、近隣の医院・診療所とのカンファレンスを定期開催し連携を図り「信頼される地域医療」を目指しています。

#### 伊豆今井浜病院

## 2) 地域包括医療施設

### いなずさ診療所の特徴

下田市北半分を占める稲梓地区唯一の医療機関であった旧下田市稲梓診療所が閉所して数年間無医地区状態が続いていました。下田市から要請を受けた地域医療振興協会が住民のみなさまの医療を確保すべく協会直営診療所として平成17年6月に開所しました。

### 安良里診療所の特徴

伊豆半島の西海岸にある小さな漁村の診療所です。内科・外科・耳鼻咽喉科を標榜しています。県下でも高齢者が進んだ地域のかかりつけ医として、小児から老人まで、病気の予防から治療まで、さらには患者さまが亡くなったあとまで、幅広く住民のお役に立てる、地域に必要とされる医療機関をめざしています。

### 田子診療所の特徴

かつて遠洋漁業の基地として栄えながら、長く医療事情に恵まれず、常駐医師不在の状況にあった西伊豆田子地区の状況を改善するため、平成11年5月に開設しました。再診に医療機器をそろえて日常診療領域を幅広くカバーし、通院が困難な高齢者に対しても積極的に在宅医療を行っています。

※ 上記以外にも、協力していただける医療施設が多数ございます。

## 8 病院群の実績

(病歴要約9分野)	伊東市民病院 (平成24年度)	西伊豆病院 (平成25年度)
消化器	715	460
循環器	263	216
内分泌・代謝	91	126
腎臓	97	108
呼吸器	462	412
血液	58	27
神経	260	208
アレルギー・ 自己免疫性疾患	13	0
感染症・中毒	58	14
入院数(延べ人数)	3739	1221

## 9 研修期間

【研修指定病院または地域病院】 基本的に内科・救急として勤務	9～12 カ月
【へき地診療所・地域病院】 単独で勤務することはなく、指導医のいる診療所、病院で研修	6～12 カ月
【選択】 整形外科外来、皮膚科外来、眼科外来、耳鼻科外来、脳外科、放射線科、小児科、産婦人科など	6～12 カ月

## 10 プログラム参加者の要件

初期研修を修了していること

## 11 処遇

- 1) 身分
- 2) 給与
- 3) 健康保険等の福利厚生制度
- 4) 医師賠償責任保険
- 5) 休日等
- 6) 宿舎
- 7) 学会費用

原則として、研修する病院の規定に従う。

## 12 プログラム修了後の進路

研修終了後は、義務ではありませんが、是非へき地医療の現場で働いていただきたいと考えています。しっかりした研修ができれば、へき地医療の現場はやりがいがあり、楽しい職場です。さらにへき地医療の現場にとどまらず、以下のような多様な選択肢があります。へき地医療を目指した研修は、へき地医療の現場にとどまらず、世の中の幅広い医療ニーズにこたえることを可能にします。

へき地診療所の医師として

研修指定病院で研修医教育の中心となる医師として

地域病院で診療科の枠を超えたジェネラリストとして

地域医療研修センター教育専任医師として

大病院の総合診療部医師として

海外留学（OHSUなど）

その他、臓器別専門医の研修、開業、公衆衛生、医療行政など、新たな道へ進む場合にも積極的にバックアップします。

### 13 プログラム運営委員（◎：プログラムリーダー）

◎ 伊東市民病院 臨床研修センター長 八森 淳（1991年 自治医科大学卒）

地域医療を目指している人、未だ目指すかどうか分からない人、未だ目指していない人のために、地域医療専門医を育成するサポートを行っています。個々の様々な患や健康問題に向き合い対処できる能力を身につけ、地域の資源を活用し、地域の皆が健康に暮らせることを支援できる医師を育てたい。全国のネットワークを活用し、そんな研修を提供しています。2013年3月新病院移転に伴い、研修環境改善とシミュレーションセンター開設により研修医の技術トレーニングを充実させました。病院一頑となり研修をサポートします。



#### 西伊豆病院 院長 仲田和正（1978年自治医科大学卒）

西伊豆病院は伊豆半島西海岸にある唯一の急性期病院です。三次救急医療機関まで車で峠を越えて1時間以上かかるため、否応なくあらゆる疾患を診なければなりません。当院では、救急は決して断らないことを病院理念に掲げており、内科系、外科系等全科にまたがり一次から三次医療に対応しています。このような状況に迅速に対応できるよう院内では活発に勉強会が行われています。医局では週5回のカンファランス、勉強会があり、その他、病院全体の勉強会が週1回あります。勉強会ではNEJMやthe Lancetの総説を中心に世界最新の情報を常に勉強し互いに教えあい、またメーリングリストを通じて全国にも提供しています。我々は常に世界最先端の知識を得て臨床を行っていると自負しています。

現在、当院の主たる医療圏である西伊豆町・松崎町両町は高齢化率がほぼ4割に達しており老年医療への対応は重要となっています。往診、特養施設の回診、訪問看護ステーション、附属診療所の展開も行っており、また常勤医師が講師となり、地域住民に向けての健康教室や勉強会も積極的に実施しています。

当院での家庭医療後期研修では家庭医としての知識、技術の習得だけでなく救急医としてのスキルアップも十分可能であり、広範な疾患に対して対応ができるようになります。また活発な勉強会、たがい互いに教えあう風土は、医師としての一生の勉強習慣を育む貴重な数年となるであろうことを確信しています。